

車載用リチウムイオン電池カーボン負極材の 第二ライン増設決定、建設開始

— 需要の伸びに合わせて数年内に複数回の能力増強を計画 —

日立化成工業株式会社(本社：東京、執行役社長：田中 一行、資本金：155 億円)は、山崎事業所(勝田)＜茨城県ひたちなか市＞において、環境対応自動車であるハイブリッド自動車(HEV)、電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド自動車(PHEV)用リチウムイオン電池カーボン負極材(以下、車載用負極材)の第二ライン増設を決定し、建設を開始しました。新たなお客様の需要に対応するため約20 億円の投資を行い、2010 年12 月の稼働を目指します。

二酸化炭素排出による地球温暖化の進行、原油価格高騰によるガソリン価格の上昇や石油枯渇の懸念による代替エネルギー導入の促進などから、環境対応自動車への関心が高まっています。これらに搭載される電池として、小型、軽量で高性能なリチウムイオン電池がすでに実用段階に入り、量産が始まっています。このリチウムイオン電池において、負極材はその特性を左右する重要な材料であり、高エネルギー密度、高出力かつ長寿命であることと安全性の両立が求められています。

当社では、携帯電話、ノートPCなどに用いられる民生向けリチウムイオン電池用カーボン負極材の研究開発で培った粒子形状や表面構造の制御技術などをもとに、高エネルギー密度化が可能な黒鉛系負極材、入力特性に優れる非晶質炭素負極材を車載用として開発し、さらに、負極材の表面構造や内部構造を、電解液や温度に対しても安定化させることで、電池の長寿命化と高い安全性の両立を可能とし、国内外の複数のお客様に採用頂いております。

当社は、昨年11 月、山崎事業所(勝田)に車載用負極材の量産ラインを建設し、本年4 月より本格的な稼働を開始しましたが、新たなお客様の需要に対応するため、今回、同様に山崎事業所(勝田)に車載用負極材の第二ライン増設を決定し、建設を開始したものです。今後の車載用負極材の需要の伸びに合わせて、数年内に複数回の能力増強を図り、総額で100 億円規模の投資を行う計画です。積極的な能力増強を継続することで、負極材事業での世界トップシェアの維持を図ります。

以上

《ご参考》



《車載用リチウムイオン電池カーボン負極材》